

活動報告

第31回 リハ工学カンファレンス in こうち

東京頸髄損傷者連絡会 麴澤 孝

2016年8月26日(金)から28日(日)の3日間、高知県立ふくし交流プラザで行われた「第31回リハビリテーション工学カンファレンス in こうち」に参加してきました。

リハビリテーション工学カンファレンスには20回目の参加になり、私の中では毎年真夏の恒例行事にもなりました。そして昨年の沖縄大会に続き遠方への参加になりました。

飛行機で行けば約90分で行くことが出来ますがご存じの通り、電動車いすでの飛行機利用は制約が多くあり、電動車いすの破損などトラブルのリスクも少なくありません。約7時間かけてのJRを使うことを決意し準備を始めました。

当日、訪問介護修了後、13:00に練馬を出発。新幹線のぞみ、特急南風を乗り継ぎ20:00に高知着。JR高知駅前が整備され10年以上前に訪れた高知とはだいぶ違う印象でした。

まずホテルに直行。そのあとは高知市民の台所「ひろめ市場」で参加の頸髄損傷者仲間と合流し初日からの食事交流会となりました。



2日目、今回の高知大会はリハ工学協会が30年を迎えた記念の大会でもあり「日本リハビリテーション工学協会30周年記念式典」も開催され、功労者・功労企業への感謝状贈呈、第31回リハ工学カンファレンス in こうち交流会、実行委員会代表挨拶、土佐和太鼓も披露され大いに盛り上がりました。会場にも多機能電動車椅子ユーザーや地元高知の障害を持った仲間など、障害を持った当事者も積極的に参加し、声を上げるユーザーが、リハ工学協会のひとつの大きな役割として見えました。

今回のカンファレンスでは私の演台発表はエントリーしませんでした。最終日の午前中に乗り物SIGセミナーの講演があり、今回の高知大会の参加の大きな目的でもありました。エンジニアのみなさんや当事者、福祉用具、住環境を専門としている方々の前で話すのはとても緊張しました。フロアからの質問、ディスカッションもとても良い雰囲気になることが出来ました。今回の高知大会では、昨年の沖縄大会でそうでしたが、障害を持ったユーザー(特に障害の重度な)への配慮が素晴らしく良く、空港～会場～ホテルのアクセスなど細かいところまで考えられているのを実感しました。ホテルには組み立て式のリフトもお借りすることが出来、気持ちよく移乗も出来ました。これはカンファレンス事務局と言うより「チームこうち」のホスピタリティの現れだったと思います。

リハビリテーション工学カンファレンスでは、「車椅子ユーザーを始め、障害を持った当事者をゲスト的な参加者でなく、一参加と対応し大げさな配慮はしない」など毎回、気持ちよく充実感のある大会になっている気がします。来年は神戸での開催です。ユーザーが積極的に参加出来る最高の大会になることを願っています。